

低所得国や中所得国においてギャングと若者の関係を絶つ 予防的介入に関する厳密な研究は存在しない



© Jorge Royan / <http://www.royan.com.ar/> / CC BY-SA 3.0

このレビューのねらいは何か？

このキャンベル系統的レビューは、低所得国と中所得国において、ギャングやギャングによる犯罪に若者が巻き込まれることを防ぐ予防的介入が、なぜ成功するのか、なぜ失敗するのか、について検討している。本系統的レビューでは、ラテンアメリカとカリブ諸国で実施された4つの調査結果を要約している。これらの調査には、フィールド観察に加え、グアテマラ、ホンジュラス、エルサルバドルの63人のギャング、ジャマイカの3つのコミュニティの940人の被告人、ニカラグアの24人とペルーの25人の協力者から得られたインタビューが含まれる。

低所得国および中所得国にとって、若者のギャング犯罪は、被害額が数十億ドルに達し、命が失われ、社会的混乱を招いている深刻な問題である。予防的介入は、犯罪を未然に防ぐことを目的としているが、低所得国および中所得国においてその効果を示す証拠はない。

このレビューは何についてのものか？

低所得国と中所得国において、若者のギャングは、総じて凶悪な犯罪や暴力と関係している。多くの場合、ギャング団は、若者を極度の不利益と社会からの孤立を克服させようとして繋がりをもっている。

予防的介入は、若者がギャング団に加わることを防止すること、刑事司法制度の外でギャングメンバーを更生させて常習的犯罪を減らすことで犯罪を未然に防ぐことを目的としている。本レビューでは、低所得国と中所得国での、有効な対策の背後にある諸要因を同定することに加え、上記の目的達成における予防的介入の効果について明らかにする。

どのような研究が含まれているのか？

低所得国および中所得国で、10歳から29歳が関係する若者のギャング団に関する研究が含まれている。有効な研究として、実験の有無にかかわらず妥当な計画による研究に限定した。

有効性を評価する基準を満たした研究はなかった。

本レビューの中で、介入が成功、あるいは失敗した理由について、4つの研究が検討している。4つのうち2つの研究では、質的研究計画のみを採用しており、残りの2つの研究では、混合研究計画を採用している。4つの研究すべては、ラテンアメリカとカリビアンで行われている。



© Lara RT / Pandilla en Bechni / CC BY-NC-SA 2.0

このレビューはどのようにして更新されるのか？

レビューの著者は、2013年9月までに公表された研究を調査対象としている。本キャンベル系統的レビューは、2015年11月に公開されている。

キャンベル共同計画とは何か？

キャンベル共同計画は、系統的レビューを公表する、国際的、任意の研究ネットワークである。我々は、社会科学および行動科学の研究で得られた知見を概観し、その質を評価する。我々の目標は、人々がより良い選択とより良い政策決定ができるよう、援助することである。

この要約について

この要約は、Ada ChukwudozieとHoward White (Campbell Collaboration) によって執筆されたものであり、Campbell Systematic Review 2015:18 'Preventive Interventions to Reduce Youth Involvement in Gangs and Gang Crime in Low- and Middle-Income Countries : A Systematic Review' に基づいている。系統的レビューは、Angela Higginson, Kathryn Benier, Yulia Shenderovich, Laura Bedford, Lorraine Mazerolle and Joseph Murray (DOI 10.4073/csr.2015.18) によるものである。要約の再検討、校正、作成は、Tanya Kristiansen (Campbell Collaboration) が行った。要約の作成にあたっては、the American Institutes for Research からの資金援助が、感謝して受け取られた。

このレビューの主要な結果は何か？

予防的介入の効果について、何らかの結論を導くことは難しい。

次の4つの要因が介入の計画と遂行に重要であると思われる。

- 1 若者に芸術やスポーツのおもしろさを訴える、体系的なプログラム構成要素をもつこと
- 2 このプログラムの計画と実行に、若者とギャングのリーダーが積極的に関わること
- 3 不安定で、短期間の介入の後では持続できないギャングの結びつき以外で、持続可能な社会的結びつきを強めること
- 4 現在進行中の暴力やギャングとの関係は、介入が成功することを阻むので、対処する必要がある。

このレビューの研究上の示唆は何か？

ギャング防止のための介入は、上記4つの要素があるときにうまく実現するだろう。

低所得国および中所得国におけるギャング防止の介入に関して厳密な評価がないので、若者がギャングに関与しないことに、どの介入が最も有効であるかの結論を導くことはできない。最も有効な介入方法を決定するためには、さらに多くの、ギャング防止プログラムの有効性についての、量的および質的研究が必要である。

